

研究資料

中村家^{近江国高島郡五番領村}蔵書目録と家系図

本 間 洋 一

同志社女子大学
表象文化学部・日本語日本文学科
教授

The Nakamura Library Catalogue and Family Tree

Yoichi Honma

Department of Japanese Language and Literature,
Faculty of Culture and Representation, Doshisha Women's College of Liberal Arts,
Professor

はじめに

平成二十八年初夏、近江国高島郡（現、滋賀県高島市）の漢学の家中村家（初代季貫）伝来の所蔵図書につき調査を依頼された。現当主はかつて本学同志社女子大学に長らく勤務されていた中村恵氏（京都市内在住）である。氏の一族は中江藤樹の門弟子にも名を連ねる漢学の家であった（岩波書店刊、藤樹書院編『藤樹先生全集』巻之四十四「門弟子並研究者伝」の「四四、中村仲直」条参照）。そして、江戸時代を通して漢学を継承し、その書籍を今日に伝えて来た。もともと、御当主の言によれば、その書籍も歳月の流れの中で（火災等にも遭い）多く失われた由で、存するのは僅かとのことであったが、本稿はこれを整理し記録に残すことを企図するものである。また、洛都に近き漢学の家の系譜を記し置くことも、聊か歴史的意義あることではないかという思い禁じ難く、御当主の許諾を得て翻刻することとした。近江国の篤学の学究勤勉の足跡は、その時代の学問のありようを彷彿させ、改めて敬仰の念措く能わざるものがある。

*目録・系図を掲載するにつき、漢字は現行の字体に改む。漢文の原文は句読点・返り点を用いていないが、読み易さを考慮して稿者が適宜補った。また、本文右側のカッコ内傍記は稿者によるものである。猶、目録の分類も私案による。忽卒の間の整理の為、不適切な点は諒恕を乞う次第である。

蔵書目録

〔四書関係〕

- 1 大学 刊本（大） 全一冊（一卷）
内題「大学章句」。刊記「元禄三庚午歳、羅山先生訓点校正四書集註、仲春中澆日、神籬、小森休里彫刻」（表紙見返）。
- 2 大学餘師 刊本（小） 全一冊（一卷）
無刊記。表紙見返「四所講釈之内、大学餘師、東都、文昇堂発兌」。
- 3 大学或問 写本（大） 全一冊（二巻）
内題「大学或問、治国平天下之別巻」。
- 4 中庸餘師 刊本（小） 全一冊（一卷）
無刊記。表紙見返「四所講釈之内、中庸餘師、東都、文昇堂発兌」。
- 5 論語 刊本（大） 全四冊（十巻）

無刊記。内題「論語、朱熹集註」。朱筆書入あり。

6 論語 刊本(大) 存二冊(卷一、二)

無刊記。内題右に同じ。上部廓外に朱筆書入あり。

7 論語集解 刊本(大) 存一冊(卷六)

内題「論語、何晏集解」。刊記「享保十七年壬子二月穀旦、武江書肆、千鍾堂須原茂兵衛寿梓」。「徳勝之印」あり。

8 論語古義聞書 写本(大) 全一冊

内題「霖竇講論語古義聞録」。

9 <趙註>孟子 刊本(大) 全七冊(十四卷)

無刊記。但し、卷末に山城屋茂左衛門の版行目録あり。

10 孟子餘師 刊本(小) 存三冊

第一冊欠。刊記「嘉永六癸丑年季春發行、東都書肆、(日本橋通二丁目)須原屋茂兵衛、(同二丁目)山城屋左兵衛、(以下略す)」。

11 孟子欄外書 写本(大) 全二冊

内題「孟子欄外書、一齋居士稿本」。卷末識語「天保五年甲午之春、於(東都邸一、請)愛日樓之本一写。受業生中郵憲功藏(印)」あり。

12 孟子輯疏 写本(大) 全三冊

内題「四書訓蒙輯疏、後学、会津安養著」。

13 <象鑄經筵進講>四書直解 刊本(中) 存五冊

無刊記(中国刊本)。版心題「經筵直解」。卷八以下欠。「徳勝之印」あり。かなりの破損本。

〔五経関係〕

14 易経集註 刊本(大) 全十冊(二十卷)

刊記「寛文三癸卯年正月吉辰、(烏丸通下立売下町)野田庄右衛門板行」。表紙見返に朱書「古義堂改点」「享保二十一年丙辰春二月、請(信州太田氏所藏昌易標注本)一謹写。上加(朱圈)一者、東涯先生所録也。中村徳勝」あり。

15 書経集註 刊本(大) 存九冊

刊記「寛文三癸卯年正月吉辰、(烏丸通下立売下町)野田庄右衛門板行」。第十冊欠本。書込多し。各冊巻末の朱書によると、享保乙卯十二月に尚徳堂で校閲したものの。「徳勝蔵」印あり。

16 書経集註 刊本(大) 存一冊(卷一)

表紙見返に「東涯先生改点」、巻末に朱書「乙卯十一月十六日、校(于尚徳堂)」

あり。朱書入多し。

17 詩経集註 刊本(大) 全八冊

無刊記。書入多し。「徳勝」印あり。

18 周礼註疏 刊本(大) 全六冊(十八卷)

無刊記。巻頭に「周礼註疏、婁東、張采受(先訂)一定」。所謂「周礼合解」か。各冊「徳勝之印」あり。

19 礼記集註 刊本(大) 全二十冊(三十卷)

刊記「寛文三癸卯年正月吉辰、(烏丸通下立売下町)野田庄右衛門板行」。各冊表紙見返に朱書「俗朱引(他人所)為也」と「徳勝」の署名あり。

20 春秋左氏伝 刊本(大) 全十五冊(三十卷)

無刊記。内題「春秋経伝集解」。第一冊表紙裏に朱書「丙午初夏購(于京師)一校訂一過。中郵徳勝(印)」「東厓先生傍訓改点并余所(加間有)之。批点每本、(如)此者不(拘)古人之法」。方是忽々自己目睫標識也。購求之日古本也。勝漫以(三)国字、誤向、白粉塗抹、朱引筆者有(之)あり。

21 春秋集註 刊本(大) 全十冊(三十七卷)

刊記「寛文三癸卯年正月吉辰、(烏丸通下立売下町)野田庄右衛門板行」。各冊に「徳勝」の墨書。

22 <校訂音訓>易経 刊本(大) 全一冊

内題「江都一齋佐藤先生校訂、音訓五経、浪華書舗、松敬堂発兌」。以下の音訓五経の最初で「序文」(江都、佐藤旦、文化十年五月)あり。

23 <校訂音訓>書経 刊本(大) 全二冊

24 <校訂音訓>詩経 刊本(大) 全一冊

25 <校訂音訓>礼記 刊本(大) 全四冊

刊記。「文化十年癸酉晚秋発兌、天保十二年辛丑初春再刻、書林、勝村治右衛門(京都寺町松原下ル)、須原屋茂兵衛(江戸日本橋通二丁目)、須原屋源助(同神田通新石町)、田中太右衛門(大阪心齋橋筋安堂寺町)、山内五郎兵衛(同上町南革屋町)梓」。

26 <校訂音訓>春秋 刊本(大) 存一冊

全四冊中の第一冊のみ。22、24同様刊記なし。

27 <改正音訓>易経(後藤点) 刊本(大) 全二冊

28 <改正音訓>書経(後藤点) 刊本(大) 全二冊

29 <改正音訓>詩経(後藤点) 刊本(大) 全二冊

30 <改正音訓>礼記(後藤点) 刊本(大) 全四冊

31 〔改正音訓〕春秋〔後藤点〕 刊本(大) 全一冊

刊記(全十一冊末尾)「天明四年甲辰九月朔旦御免上梓、天明七年丁未元旦発兌、平安書肆、(五条橋通高倉東入町)北村四郎兵衛」。

32 經典餘師 刊本(中) 全十六冊

同板ではなく、少なくとも三種の取混本。第一冊「大学朱熹章句」。第二冊「論語朱熹集註」。第三、八冊「書經」。第三冊表紙見返に「讀岐百年先生述、經典餘師、書經之部、六卷、浪華書林(称航堂、南華堂、称玉圃、文金堂合刻)」。同卷頭に「餘師題辭、戊午之春、王藻舎主人撰」。第八冊卷末に「溪百年先生著述」として「經典餘師目錄」付載、その後跋文(浪華後学橋本好道拜書)と刊記「文化十二年乙亥二月」(平安・東都・浪華の九書林によるも略す)。第九冊「孝經」。版心に「群鶴堂梓」。第十、十六冊「周易」。第十冊表紙見返に「讀岐百年先生述(經典餘師)易經之部七卷、京撰書林、六書堂合刻」。同卷頭に「百年溪世題」(文化丁丑初冬)。第十六冊卷末に跋文(文化己卯正月、橋本好道謹書)、その後三都の發行書肆十三人の名を付す(略)。

〔孝經他類〕

33 古文孝經 刊本(大) 全一冊

無刊記。疊紙包。「小学校生徒三等賞与品、孝經、文部省」とある紙片に「滋賀県高島郡第五十六小学区鴻溝学校小学全科卒業生徒、中村萬藏」。

34 性理大全拔萃講義 写本(大) 全一冊

九丁分のみ存。卷頭に「萃々齋鈔本」。裏表紙に「天保第七丙申初夏於浪華魯泮居」の墨書。

〔小学・字書類〕

35 玉篇 刊本(横小) 全一冊

無刊記。内題等「重録新增字林玉篇」「新增字林玉篇」。

36 字彙 刊本(大) 存十三冊

表紙見返に「鐫宣城梅誕先生重訂字彙、鹿角山房藏版」。第十四冊欠本。

37 摭古遺文 刊本(大) 全二冊(二卷)

表紙見返に「如真李先生輯、摭古遺文、太原齋藏板」。刊記「享保元年丙申歲、京師書肆、積善堂、富義堂、文泉堂」。篆文の集字書。「徳勝之印」あり。

38 草書韻會 刊本(大) 全一冊

冒頭に「草書韻會引」(正大八年二月四日、閑々屋土、趙秉文為題「其端」、見住

燕京角頭、鄭州王家影印)とある。卷頭に「草書韻會、錦谿老人張天錫集」。刊記「慶安四辛卯曆仲秋吉辰、(寺町通円福寺町)秋田屋平左衛門刊行」。韻字分類による草書字典。

39 韻鏡遮中鈔 刊本(大) 全四冊

内題「韻鏡字子」。卷頭に識語(紹興辛巳七月朔、三山張麟之子儀謹識、慶元丁巳重刊)と序文(嘉泰三年二月朔、東浦張麟之序)あり。刊記「寛文三稔癸卯六月吉辰、長尾平兵衛開板」。全部四本中村氏蔵」と墨書。

40 詩韻含英(完) 刊本(小) 全一冊(十八卷)

無刊記。卷頭に「詩韻含英、山陰劉文蔚豹君輯」。卷末に「尾張、小河鼎士鉸校」と見える。

41 〔新鑄〕故事成語考 刊本(中) 全二冊

無刊記。表紙見返「瓊山先生彙纂、幼学須知必讀成語考」。卷頭に「新鑄詳解丘瓊山故事必讀成語考、雲間盧元昌文字補著」。跋文(天和壬戌六月上浣、後学中島義方)あり。各冊に「徳勝之印」あり。

〔史書〕

42 〔新刊校正〕史記評林 刊本(大) 全二十五冊

無刊記。第一冊表紙裏に朱書「享保乙卯、購三求于京師」。中村徳勝」と「徳勝之印」あり。第二冊表紙裏に朱書「批点每本、々々、如レ此者、不レ拘二古人之法一、方是忽々自己目睫標識也」あり。

43 前漢書拔萃 写本(大) 全一冊

卷末朱書識語「元文戊午之夏、誌二于京師古義堂」。古義堂之本也。寛保起元冬十一月読初、明年三月読畢。拔萃大溝解舎、徳勝」。

44 後漢書拔萃 写本(大) 全二冊

表紙裏朱書識語「庚申元文五年、請二豊城木下侯藏本一、涉二狹于東都邸一。過半壬戌冬、水哉閣裏、全読畢。徳勝」。

45 三国姓氏録 写本(大) 全一冊

内題「三国志姓氏爵里」。末尾に識語「寛延四年辛未夏、東都解舎」。

46 〔標記増補〕十八史略 刊本(大) 存五冊

無刊記。卷六・七欠。卷頭題「立齋先生標題解、註音釈十八史略」。卷頭に「音博士岩垣先生十八史略序」(天保九年戊戌孟春、從五位上行大舎人助撰音博士源朝松苗撰「於平安東洞遺古堂」)他あり。

47 十八史略字引 刊本(小) 全一冊

表紙見返「明治十一年十月発兌、合書堂梓」。巻末に「和漢洋書籍所（近江国大津升屋町）小川儀平」とある。河邨与一郎著。

48 通鑑集要 刊本（中） 全十冊（十卷）

無刊記。巻頭に「新鐫通鑑集要」。表紙見返に「諸理齋先生原本、通鑑集要、金闈葉繼照梓行」。各冊に「徳勝之印」あり。

49 皇明通紀 刊本（中） 全十冊（十一卷）

無刊記。版心題「皇明通紀大全」。巻頭に「皇明資治通紀序」（万曆丙戌歲仲冬之吉、陳建）あり、第十冊末尾に「書林、安正堂、劉運台梓行」と見える。

50 國語 刊本（大） 全十冊

無刊記。内題「國語、吳高陵亭侯韋昭解、宋鄭国公宋庠補音、明吏部考功員外穆文熙編纂、兵部侍郎石星校閱」。

51 晏子春秋・呂氏春秋拔萃 写本（大） 全一冊

表紙裏識語「宝曆三年癸酉之夏、在レ京涉二獵二書一」。

52 伊洛淵源録新増 刊本（大） 全三冊（十四卷）

53 伊洛淵源録 刊本（大） 全二冊（六卷）

52と同時刊行。刊記「慶安二曆仲春」。巻末に朱書識語「寛保紀元辛酉冬十月撰二紹述先生之本一、校二訂於水哉閣上」。中村徳勝（印）あり。

〔子部・儒家類〕

54 荀子 写本（大） 全二冊

巻頭に「荀子序、揚子」（大唐睿聖文武皇帝元和十三年十二月也）、第二冊巻末に朱書識語「此本、但出石侯記室桜井生所藏。丙寅夏五月贈レ予」とあり、後に「徳勝之印」「字士建」押印。匡郭外に墨筆書人多し。

55 小学 刊本（大） 存三冊（卷三、六）

題簽「小学内篇句読」（卷三、四）「校正小学外篇句読」（卷五）。刊記「元禄七載甲戌重陽穀日、書林、皇都川勝五郎右衛門、武江須原屋茂兵衛。各冊表紙裏に「徳勝」の署名。

〔子部・兵家類〕

56 七書 刊本（大） 全七冊

第七冊末尾に跋文（慶長十一龍集丙午初秋念又一日、紫陽閑室元佑叟書焉）。刊記「寛永二十年夏五吉祥」。

〔子部・芸術類〕

57 大唐三蔵聖教序 折手本一帖

第一葉に「義而書屋」「撫松園藏書記」等の印あり。懷仁撰「集字聖教序」拓本法帖。

58 絳帖 〈乾・坤〉 刊本（大） 全十二冊

無刊記。末尾奥書に「淳化五年歲在甲午一春王正月、潘師旦奉二聖旨一、摸二勒上石一」。『淳化閣帖』（淳化三年）の重刻本の一の『絳帖』に仮託した集帖で、俗に云う「偽絳帖」か。

59 中書楷訣 刊本（大） 全一冊

内題「中書楷訣、姜立綱著」。刊記「享保二十年乙卯初秋日、江府書肆（本町三丁目）西村源六發行」。楷法の筆法を字例を挙げ解説。

〔子部・雜家類〕

60 淮南鴻烈解 刊本（大） 全六冊（二十一卷）

刊記「寛文甲辰孟陬之月、洛下、浦客石齋鶴子直訓点、書林、額田勝兵衛、同姓正三郎求版」。『徳勝』朱印あり。

61 菜根譚 〈乾〉 刊本（中） 存一冊

下（坤）巻欠。表紙見返「明還初道人著、東都層山堂梓、菜根譚」。冒頭に「重刻菜根談叙」（文政五年壬午五月、加賀文学孫坡林瑜撰）あり。巻頭に「菜根譚前集、還初道人洪自誠著、覚迷居士汪乾初校、日本林瑜孚尹重校」。

62 五雜組 刊本（中） 全八冊（十六卷）

無刊記（中国刊本）。朱点と「徳勝之印」あり。

63 鶴林玉露拔萃 写本（大） 全一冊

末尾に「右玉露、天地人九策」と記す（21丁少々）。

64 世説新語補 刊本（大） 全十冊（二十卷）

刊記「元禄七年甲戌八月之吉、（京東洞院通夷川上町）林九兵衛梓行。徳勝蔵印あり」。

65 〈校正〉蒙求 刊本（大） 全三冊（三卷）

内題「標題徐状元補注蒙求」。刊記「天和二壬戌之歲三月日、角屋清左衛門、北村書堂。朱筆書込、「徳勝之印」あり」。

〔子部・類書類〕

66 円機活法 刊本（中） 全二十冊（二十四卷）

内題「新刻重校増補円機活法詩学全書」。刊記「延宝癸丑孟冬吉辰、(雒陽西御門前)書林、積徳堂重梓」。但し、一冊別刷入れ本あり。

〔子部・道家類〕

67 莊子 刊本(大) 全十冊(十卷)

内題「莊子虞齋口義、虞齋林希逸述」。第十冊のみ写本(従つて刊記欠)。末の入れ紙に識語「此終巻往昔為二貸書一紛失。予撰二間隙一、時々写レ之。故字々擾乱、不レ協二拙意一。只是補之名而已哉。文政四年辛巳之春、中村憲功書レ之。

68 〈有象〉列仙全伝 刊本(大) 全五冊(九卷)

表紙裏に「絵像、列仙全伝」。刊記「慶安三歲次二庚寅一季秋初六日刊行、(寺町通三条上町)藤田庄衛門」。

〔集部・別集類〕

69 杜律集解 刊本(大) 全三冊

内題「杜律五言集解、閩中部傳夢弼集、陳学樂以成校」(第一冊)、「杜律集解五言」(第二冊)、「杜律七言集解、閩中部傳夢弼集」(第三冊)。刊記「貞享第三龍集丙寅春正月既望、(京車屋町通夷川上ル町)林久次郎、(江戸神田元乗物町出店)同源兵衛梓行」。その後朱書「延享紀元甲子秋八月購二求東都一。校訂一過。仲徳勝」。

70 東坡集 刊本(大) 全六冊(十六卷)

無刊記。巻末に朱書「明和二年乙酉夏六月、霖竇先生所レ恵。中邨徳勝」。

〔集部・総集類〕

71 〈大字改正〉三体詩 刊本(大) 全三冊

内題「増註唐賢絶句三体詩法」(第一冊)、「唐賢七言律詩三体家法」(第二冊)、「増註唐詩五言律句三体家法」(第三冊)。巻末に「唐賢三体詩流二于世一印本多焉。雖レ然文字不レ正。依レ之以二羅山先生筆削之点本一而改正文字為二錯乱一寿梓、流二于後世一。云爾。井筒屋六兵衛開板」とあるも刊年無し。

72 唐詩選唐音 刊本(小) 全一冊

表紙見返「安永新刻、李于鱗唐詩選唐音(五言絶句、七言絶句)江戸書肆嵩山房梓行」。巻頭に「唐詩選唐音、濟南李攀龍編述、崎水劉道音、東都高田識訂」。刊記「安永六丁酉歲仲春、江戸書林嵩山房、小林新兵衛梓行」。

73 唐詩訓解 刊本(大) 全四冊

内題「新刻李袁先生精選、唐詩訓解、濟南滄溟李攀龍選、公安石公袁宏道校、書林獻可余応孔梓」。刊記「万曆戊午孟夏月、居仁堂余獻可梓」(二条通鶴屋町)田原仁左衛門梓行」。

74 〈皇明〉七才詩集註解 刊本(大) 全二冊(七卷)

内題「新刻陳眉公攷正国朝七子詩集註解、雲間眉公陳繼儒句解、嶺南三水李士安補註」。跋文「元禄己巳仲春壬申、宇遯菴的跋」あり。巻末に朱書「壬戌之秋請二香稚氏之本一、校二訂水哉閣一。在京師之日「甲子之夏在京東都、請二絃亭安戸子所藏烏石山人校訂本一、再改正客中」あり。各冊に「徳勝之印」あり。朱筆書込多し。

75 〈魁本大字諸儒箋解〉古文真宝 刊本(大) 存一冊

巻上一冊(後集。辞類より記録迄所収)のみ。

76 古文真宝前集 刊本(大) 存一冊

巻頭に「魁本大字諸儒箋解古文真宝前集(上中下巻所収)。刊記「京(車屋町通夷川角)林久次郎刻、元禄四辛未曆文月下絃、書肆(撰州難波住)磯野三郎右衛門刊」。その後朱書「古本也。庚申冬日購二求東都一。中邨徳勝」あり。

77 古文真宝後集 刊本(大) 存一冊

内題「魁本大字諸儒箋解古文真宝巻之下、後集」(巻下は箴類より書類迄所収)。刊記「元禄二己巳年四月日、梅村蔵版」。その後朱書「此本、不佞弱冠之時、自二厚兄一所レ恵。徳勝」あり。

78 文章軌範評林 刊本(大) 全四冊

巻頭に「正文文章軌範百家評林註釈、(広信豊山先生)謝枋得批選、(太史九我先生)李廷機評訓、書林耀五陳徳宗繡梓」(第一、二冊)、「続文章軌範百家批評註釈、(東郭先生)鄒守益批選、(漪園先生)焦竑評校、(九我先生)李廷機註、(第三、四冊)。刊記「京師書林、(武村新兵衛、林久次郎、植村藤右衛門)、万曆新春孟秋月穀旦、熊冲宇發行、正徳乙未年、(杉生五郎左衛門、土川宇平合彫)」。巻末に朱書「軌範全書。享保乙卯三月、請二東涯先生之本一、謹校二于天香室一。寛保紀元冬十月、再二校于水哉閣上」。中村徳勝(印)。右天香室、水哉閣、皆京師古義堂也」あり。

79 唐宋聯珠詩格 (上) 刊本(横小) 存一冊

巻頭に「精選唐宋千家聯珠詩格、番禺黙齋于洛徳夫、建安蒙齋蔡正孫粹然編集」。

〔集部・尺牘類〕

80 王弼州尺牘 刊本(大) 全一冊

内題「雲門先生考訂、弇州尺牘、皇都博文堂梓」。巻頭に「弇州先生尺牘選、明吳郡王世貞著、越郡洗一貫選、日本長門越有原校」。刊記「寛保二年壬戌秋九月、皇都書舖、〈三条通柳馬場西入町〉丸尾市兵衛刊行」。

81 李滄溟尺牘 刊本(大) 全一冊

内題「滄溟尺牘、蘭陵先生考訂」。刊記「享保十五年庚戌九月日、江都書肆、嵩山房、須原屋新兵衛梓行」。「小林延季」「徳勝之印」の押印あり。

82 尺牘双魚 刊本(大) 全四冊

内題「新鑄増補較正寅幾熊先生尺牘双魚」。刊記「承応三曆孟秋吉旦」。

83 尺牘彙書 刊本(中) 全三冊

無刊記。内題「玉堂尺牘彙書、康熙壬戌冬新編、古城陳太士・平江蔡九霞二先生纂著、集賢居梓行」。巻頭に「新鑄註釈玉堂尺牘彙書」。各冊に「中村蔵書」印、「溝藩中村蔵」の墨所あり。

84 格致餘論 刊本(大) 全一冊

刊記「元禄二歳己巳春三月、花洞田窮軒書、吉野屋徳兵衛刊行」。表紙見返に「友松軒中村季貫」の署名。

85 〔宋板〕傷寒論 刊本(中) 全五冊(十卷)

刊記「寛文八年戊申五月吉日、〈姉小路通堀川東江入町〉中川茂兵衛板行」。各冊表紙見返に「季貫」の丸朱印あり。第五冊末に「中村季貫蔵」の墨書。

86 〔大医院編〕万病回春 刊本(大) 全八冊(八卷)

第一冊表紙見返に「医演軒岐肘後千万皆奏功、儒医龔雲林先生、新編万病回春集、万曆丁酉歳秋月吉日、周対峰刊行」。

87 〔新刊大字〕十四経 刊本(大) 全一冊(三卷)

内題「新刊十四経絡発揮」「十四経発揮」。刊記「延宝三乙卯歳六月吉日、松会開版」。表紙裏に「友松軒中村季貫」の墨書。

88 傷風約言 刊本(中) 全一冊

後藤省仲介甫著。刊記(表紙見返)「享保壬子新鑄、傷風約言、平安文泉堂發行」。巻末に「中村季貫蔵」の墨書の他、朱点や欄外に墨筆書込あり。

89 一本堂葉選 刊本(大) 全三冊(三卷)

香川静庵著。刊記(表紙見返)「一本堂葉選、享保辛亥新刊、平安文泉堂發行」。各冊表紙裏に「中村季貫」の署名と朱印あり。

90 方書 刊本(横小) 全一冊

無刊記。薬方調剤の袖珍本。表紙見返に「友松軒中村季貫」の墨書。

91 萬外集 写本(大) 全一冊

内題「萬外集要」「萬外集要別録」「萬外集要小切紙」(末尾に「元文元年丙辰八月写」から成り、「聞録拔萃」を付す)。

92 医仙図讚 刊本(大) 全一冊

無刊記。表紙見返に「医仙三十六、摘二出古今編」、功在二先生手一。杏林□衆賢門人島崎習庵賛校、医仙図讚、洛陽銅駝坊書肆武嶋蔵板。巻頭には「医仙序」二篇(貞享戊辰仲夏下澣、久保圭三復叙。貞享四年龍集丁卯夏六月下澣、洛陽森草全杏山操二筆于諭義軒)あり、末尾に記(貞享三年丙寅仲春上澣、土陽医士菊隠老人)を付す。

93 医道日用記 刊本(横小) 全一冊

巻頭に序(宝永己丑季秋吉旦、浪華芳菊堂本郷正豊序)あり。刊記「宝永七庚寅年正月吉祥日、書林(京二条通堺町)上村平左衛門、(江戸日本橋青物町)萬屋清兵衛、(大坂心齋橋筋上人町)鷹金屋彦兵衛刊行」。巻末に「友松軒季貫」の墨書。

94 養菴先生碑銘行状 刊本(大) 全一冊

儒医後藤養菴(良山)の伝記資料。「養菴先生後藤君墓誌銘」(香川修徳謹撰)、「先府君養菴先生行状」(子省謹撰)、「附録、養菴先生遺教」(子省謹述)から成る。香川修徳は伊藤仁斎・後藤良山の弟子(儒医)。

95 養菴先生医教 写本(大) 全一冊

全六丁分書写の後に「孤哀子後藤省述」とある。

96 養菴後藤先生病因所考 写本(大) 全一冊

表紙裏に「先人晩年学二医於京師後藤氏一。屢寓居不三齋為二世路一。為三親戚故旧助二病患一也。嗚呼、其志深哉。此書以二国字一録。然医門実可レ謂二宇宙第一之書一矣。余所二敢忻慕一也。癸未之歳。中村徳勝謹識」とあり、巻末には「享保十八年歳次二癸丑一八月日、中村季貫録」と見える。

97 〔国史〕神代卷 刊本(大) 全二冊

無刊記。内題「日本書紀」。第二冊末尾に「(二条通松屋町)書肆武村市兵衛蔵版」「書二于神代紀後一」(元禄九歳丙子孟春中澣、隠士五天散人良空謹誌)とある。

98 〔評註校正〕神皇正統記 刊本(大) 存一冊

無刊記。内題「日本書紀」。第二冊末尾に「(二条通松屋町)書肆武村市兵衛蔵版」「書二于神代紀後一」(元禄九歳丙子孟春中澣、隠士五天散人良空謹誌)とある。

全六冊中の一冊(巻一―三)のみ。表紙見返に「北畠准后親房公撰、(評註校正)神皇正統記、全六冊、京城同盟書買梓」とあり、巻頭に序文(慶応元年夏四月中流、平安処士□拳樹園河真一)を付す。

99 年代略記 写本(小) 全一冊

表紙に「日本王代一覽神州記略、完」。表紙裏に朱書「□本自神武帝一、至二百七代正親町御宇一。自神武天皇元年一、至元禄三年一、凡二千三百五十年。此小策不レ記二歴年一。徒記レ有レ事而已焉爾」あり。

100 日本政記便蒙(地) 刊本(小) 存一冊

内題「日本政記便蒙、巻之中、京都尾本源吉郎編輯」。

101 国史略 刊本(大) 全六冊(五巻)

表紙見返に「音博士岩垣先生編次、国史略、明治八年十一月十四日版權免許、五車樓梓」。第六冊末尾に刊記「文政丙戌季冬刻成、安政丁巳仲秋再刻、慶応己丑仲冬三刻、明治辛未冬四刻、(京都御幸町通姉小路北)藤井孫兵衛」。

102 国史略 刊本(大) 存二冊

巻四、五のみ存。巻五末尾に「文政丙戌季冬刻成、明治七年五月刻成、(京都御幸町姉小路北)藤井孫兵衛」。

103 加州家記 写本(中) 全一冊

冒頭に「末盛軍録加州家記序」(貞享乙丑年、加州ノ隠士序ス)あり。巻末に「貞享三年寅ノ弥生七日。此外二紙四十斗□冊アリ。別写」と記す。表紙裏に「中村季貫」の朱書。

104 関ヶ原軍記 写本(中) 全三冊(三巻)

かなりの虫損本。表紙裏に「三本内、中村季貫」の朱書。第一冊末尾に識語「関ヶ原軍記上巻終。写本紙数四十枚、今写ス細カナリ、廿五枚。七十翁友松軒季貫。宝曆四甲戌五月四日。是迄写シ仕舞、第二冊末尾に識語「右ノ書者写本也。或所ヨリカリ来リ、宝曆四甲戌春四月ヨリ五月、今十八日写仕舞。写本誤力落カ、不レ読所多シ。又此度可レ多二誤字一。五番領友松季貫七十毫」あり。

105 国学釈奠儀注 写本(大) 全一冊

内題「国学釈典儀註、学生関修齡略述」。19丁少々(下)の書写で、末に識語「国学釈奠儀注質疑」(安永戊戌夏四月、関脩齡識)あり。

106 国本論 写本(大) 全一冊

巻頭に「国本論序」(天明九年秋八月二十一日、白川世子源定信)あり。

〔邦人編漢詩文関係〕

107 続宋詩清絶 刊本(小) 全一冊

刊記(表紙見返)「天保辛丑刊、如亭先生撰、続宋詩清絶、五山先生校、歳寒堂蔵板」。巻末に「江戸書林、(日本橋通一丁目)須原屋茂兵衛、(同通二丁目)山城屋佐兵衛」とある。巻頭に菊池五山の序文(市河米庵書)を付す。

108 三家妙絶 刊本(小) 全一冊

無刊記(文化四年版の後刷本か)。表紙見返に「三大家絶句統、寛斎先生輯、(市河)范石湖・楊誠齋・陸放翁」三家妙絶、詩聖堂蔵版」とある。

109 明七子詩解 刊本(大) 全三冊

内題「蘭台先生著、明七子詩解、皇都書林桐華軒、寿徳堂、白玉房合刻」。刊記「宝曆七歳丁丑五月吉日。東都書林、前川六左衛門、井上忠兵衛。皇都書林、山岡四郎兵衛、梅村三郎兵衛」。李攀龍・王世貞・梁有譽・謝榛・徐中行・呉国倫・宗臣の七家の詩を所収。各冊に「徳勝之印」あり。

110 唐詩靴 刊本(小) 全一冊

大江資衡輯。刊記「安永二年癸巳六月吉日、書林、江戸(日本橋南一丁目)須原屋茂兵衛、大坂(心齋橋筋)大野木市兵衛、京都(室町通六角下町)田原勘兵衛、同(堀川通仏光寺下町)河南四郎右衛門、同(同町)河南四郎兵衛。韻別に「三字語」(五、七言一句の下三字分)を列挙し、平仄のしるしを付す語彙集。

111 唐詩材 刊本(小) 全一冊

冒頭に「増補唐詩材序」(宝暦壬午夏閏四月、平安藤玄芝書)。巻頭に「増補唐詩材、西洞先生闕、公西維恭子讓武其雄子谿同輯、木光庭趨之校正」。刊記「明和二年西三月吉日、帝都書林、京極堂(七人の名略す)」。

112 詩語碎錦(下) 刊本(小) 存一冊

巻頭に「詩語碎錦、平安永忠原俊平輯、桑元儀民則、三河薩元雌雄甫校」。刊記「詩語碎錦、続編嗣出、明和五年戊子九月原板、安永八年(一七七九)己亥十月再刻、平安書林、(堀川通仏光寺下町)植村藤右衛門、(室町通六角下町)田原勘兵衛、(二条通柳馬場東入ル町)林伊兵衛」。

113 詩礎玉振 刊本(横小) 全一冊

刊記(表紙見返)「詩礎玉振、嘉永三庚戌新刻、三木□淵堂製本」。巻頭題「詩礎玉振、筑前藤良国輯」。

114 唐宋詩語玉屑 刊本(小) 全二冊(十巻)

高木専輔輯。無刊記。表紙見返に「矢上快雨先生校、(唐宋)詩語玉屑、京撰書林五書房同梓」。第二冊末尾に「大阪書林(心齋橋通北久宝寺町)河内屋佐助校」とある。

115 詩礎楷梯(天) 刊本(小) 存一冊

表紙見返に「鷹巢三国先生著、詩礎楷梯、一洗堂藏版」。鷹巢の序文(天保甲辰端)あり。門人の橋直敬・児玉徳・上田慎・山田恭らの手でまとめられたもの。

116 〈新版龍頭〉詩聯大成以呂波韻 刊本(中) 全二冊

清地鈞雪著。表紙見返に「医王山藏版、詩聯大成、書林文海堂」とある。巻頭題「改正増字以呂波韻」。版心題「詩綱大成以呂波韻」。刊記「元禄十二乙卯年九月吉辰、池田弄華軒板」。かなりの破損本。

117 和漢朗詠集 刊本(大) 全二冊

巻末に刊記「天明二年壬寅七月、筆者沢井随山、皇都書林(京寺町通松原下ル町)勝村治右衛門、(堀川通六角下ル町)中川藤四郎」。第一冊表紙見返に墨書「文化七歳庚午正月十五日調之」、裏表紙見返に墨書「文化庚午之初春、於三浪華一購求。友松軒」あり。

118 史館茗話 写本(大) 全一冊

巻末に「享保八癸卯正月月中旬、中村智助季実、於三東武一写レ之(外桜田久保町)と記す。寛文八年刊本の書写。

119 古学先生文集 刊本(大) 全三冊(六巻)

巻末に朱書「享保癸丑冬日、請三先生之本、謄二写標註旁訓」。時繁劇、欲二速終レ業、字画不レ正。中村徳勝。朱や墨筆による書込多し。伊藤仁斎の文集で次の詩集とともに刊行されたもの。

120 古学先生詩集 刊本(大) 全一冊

表紙裏に朱書「冠註謄写、百事忽々、速脱レ功、字画不レ正」。刊記「享保丁酉新刊、京兆、玉樹堂發行」。「徳勝之印」「字士建」印を押す。

121 南郭先生文集(初編) 刊本(大) 全六冊

望月鹿門(三英。南郭の弟子)輯、伊藤南昌(維迪。徂徠の弟子)校。刊記「服部小右衛門著、享保十二丁未秋九月日、江都書肆、嵩山房、須原新兵衛梓行」。

122 紹述先生文集 刊本(大) 全三十冊

刊記は第二十冊(巻二十。散文篇最終)末尾に「宝曆九年己卯秋八月刊至レ此。平安書林、文泉堂、林権兵衛(間之町御池上町)發行(古義堂藏板)の朱印」、また第三十冊(詩篇最終)末尾に「宝曆辛巳之秋七月全刊、平安文泉堂發行(古義堂藏板)の朱印」。また「文詩部三十本、戊寅春上レ都入銀。中村徳勝(字士建)」の朱書あり。

123 紹述先生碣銘 刊本(大) 全一冊

伊藤東涯の碣銘。「内大臣藤原常雅公諱」文で碣銘の末尾に「元文二年歳次二丁

巳二夏六月望月、子善韶建」とあり、その後に「元文二年秋九月、門人度会未済謹書」と記す。末尾に「(間之町御池上ル町)、林権兵衛發行」とあるも刊年はない(全八丁)。

124 詩書小序 刊本(大) 全一冊

書序と詩序所収。巻頭に「題二詩書旧序」(服元喬題)、巻末に「合刻詩書旧序跋」(元文戊午之冬、南総瀧水宇恵識)あり。刊記「元文六辛酉孟春、武江書林、谷村豊左衛門梓」。

125 続東園百絶 刊本(小) 全一冊

刊記「続東園百絶(音博士岩垣先生著、文政戊子新刻、五車楼梓)(表紙裏)「文政戊子秋九月刻成、新続東園百絶嗣出」(巻末)。識語「東園先生初名維光、後有レ避改二今名」。余家曩所二梓行、日本文鈔等所載源維光者、即先生也云。皇都書肆(御幸町御池下)菱屋孫兵衛識」あり。

126 鸞溪先生詩文集 写本(大) 全五冊

中村徳勝の詩文集(映入)。「鸞溪先生文集」(三冊)。「拙文至二安永九年庚子秋一、惣計凡九十五首。後亦加レ四」の朱書あり、「鸞溪先生詩集」(二冊)。巻頭に「至二安永九年庚子之秋一拙詩、惣計三百六首」とある)から成る。弱冠より作る文詩の草稿と記す(壬辰春日、中村徳勝)。

127 詩稿 写本(大) 全一冊

表紙に「天保四年癸巳季秋、東都之作、魯泮主人」とあるも、七絶八首を記すのみ(三丁分)。

128 藤樹先生年譜 活字本(大) 全一冊

無刊記。巻頭に「藤樹先生年譜序」(安政五年歳在二戊午一春正月、樗嶺分部光貞撰)、「年譜」(雍江川田剛毅卿撰)あり。末尾の識語「安政丁巳冬十一月、川田剛識」。表紙に「藤樹書院」の朱印あり。

129 歴代名家文鈔(天) 刊本(中) 存一冊

巻一のみ存。巻頭に「歴代名家文鈔、浪速、田結莊秘邦光評閱、中尾正輔士熙編集」。表紙見返に「田結莊秘必香氏評閱、中尾正輔輯、歴代名家文鈔、慶応丙寅年」。

130 洗心洞詩文(下) 刊本(中) 存一冊

大塩中斎の詩文集。刊記「版權免許、明治十二年十一月二十七日、編集者兼出版人、從六位(大阪府土族)中尾捨吉(西区土佐堀通三十一番地)、発売人(兵庫県平民)船井政太郎(撰津国神戸区神戸元町通五丁目三十六番屋敷)、(大阪府平民)大野木市兵衛(南区心斎橋筋一丁目七番地)」。

131 藁園百絶 (全) 活字本 (小) 全一冊

内題「乙卯春日、西川文仲著、藁園百絶、全、困学堂印行」。表紙見返に「明治十二年十一月、西川翁自齋寄贈」と朱書。文仲は本姓中村。藁園、困学堂主人ともいい、大溝藩脩身堂の教授を勤む。巻末に菊池三溪の評「無三、一字無二、来歴一焉、無三、一句無二、淵源一焉。詩境至此、正是千古不朽。公腹笥之繁富、可三以概見」也。明治十一年九月、菊池純妄評あり。刊記「明治十一年十二月十八日御届、明治十二年二月十三日出版、定価金十二銭。著述人〈滋賀県士族〉西川文仲〈滋賀県滋賀郡第八区石川町光西寺寄留〉、出版人〈滋賀県平民〉高田義甫〈滋賀県下滋賀郡第九区今堀町勸善舎中寄留〉」。

132 黄石齋第四集 刊本 (中) 存一冊

無刊記。内題「黄石齋第四集、巻下、淡海岡本迪吉甫」。巻末に「門人、信濃、水井周芳、齋藤順祥甫校」とあり、その後に「黄石齋詩集後序」(明治十四年辛巳清和月、鑿亭蒲生重章拜識、本城幸也書)あり。

133 浪迹小藁 刊本 (中) 全一冊

巻頭に「浪迹小草、淡海、宇津木靖共甫著」。静区は彦根藩宇津木昆獄(一七四七—一八二二)次男。刊記「明治十五年五月八日、出版御届、著者并出版人〈滋賀県士族〉岡本黄石〈麴町区平川町一丁目五番地〉」「製本壳弘」北畠茂兵衛〈東京日本橋区通二丁目十五番地〉」。

『伊藤仁齋・東涯論著』

134 童子問評注 写本 (大) 全一冊

『童子問』中の語彙・表現の注記を書写。表紙見返に朱書「時繁開、写字溲漫、後日將三正書」、巻末に朱書「享保癸丑、獵月、写于信之上田尚徳堂」。百事忽々、字画不レ正。他日当レ改レ字。中村徳勝あり。

135 童子問聞録 写本 (大) 存一冊 (巻上、中)

内題「省所講刊童子問序聞録」。

136 鄒魯大旨 刊本 (大) 全二冊

無刊記。冒頭に序文(享保十年乙巳重九日、伊藤東涯)、下巻末に後序(享保十五年庚戌孟陽、達軒藤原高顕)や跋(享保庚戌重九日、門人奥田亨拜書)、「平安奎文館発行」と見える。享保十五年版の後刷本か。

137 經史博論 刊本 (大) 全二冊

伊藤長胤著。表紙見返に「元文丙辰新鑄、經史博論、平安文泉堂発行」。刊記「元文二年丁巳三月穀旦、皇都書肆、〈間之町御池上ル町〉林権兵衛発行」。徳

勝之印」あり。

138 新刊用字格 刊本 (大) 全四冊

表紙見返に「翻刻必究、訓蒙用字格、平安奎文館発行」。巻頭に「新刊校正用字格、伊藤長胤輯」。刊記「皇和享保十九甲寅夏六月、平安書房奎文館、瀬尾源兵衛発行」。各冊に「徳勝之印」「字士建」押印。

139 訓幼字義 写本 (大) 全八冊

巻頭に「訓幼字義序」(享保二年冬日、伊藤長胤書)あり。標頭に朱筆書入れも見える。

140 刊謬正俗 刊本 (大) 全二冊

伊藤長胤著。刊記「寛延元年戊辰冬十一月吉日、江都書肆、青竹楼寿梓〈本石町三丁目〉前川庄兵衛」。

141 太極十論 写本 (大) 全一冊

「太極十論」(朱点記入)と「太極図說管見」(伊藤氏学)からなる。末尾に「時、宝永四年丁亥之春、平安伊藤長胤謹識」とあり、次に「元文二年丁巳之夏、中村徳勝」と記す。「徳勝之印」「字士建」押印。

142 古今教法沿革図 一軸

古代の唐虞より宋に及ぶまでの沿革図。木版刷を軸仕立てにしたもの。刊記「享保歲次二甲寅、復月良辰、伊藤長胤謹誌」。

143 弁疑録 刊本 (大) 全二冊

刊記「享保十九年春正月、〈京都室町通仏光寺下町〉書肆梅井藤五郎発行」。朱・墨筆による書込多し。各冊に「徳勝之印」「字士建」押印。

144 積親考 刊本 (大) 全一冊

巻頭に「刊積親考序」(享保歲次三乙卯、秋七月、信州上田鎮安原貞平伯享甫書)于東都昌平橋邸)あり。次の続編と併せて刊行。

145 積親考続論 刊本 (大) 全一冊

刊記「元文元年丙辰仲夏穀旦、京都書肆、〈堀川錦上ル町〉西村市郎右衛門、江都書坊、〈本町三丁目〉西村源六」。

146 名物六帖 刊本 (大) 存十七冊

伊藤東涯著。表紙裏に「享保乙巳新鑄、平安奎文館発行」。第七冊巻末に「京師書林、奎文館、瀬尾源兵衛発行(印)」とある後に識語「寛政九年丁巳、東処之本一校訂。惟明」。この後の「宮室箋第三帖」欠本。第十二冊巻末に識語「寛政十年戊午春三月晦、扨二原本一校畢。惟明」「明和元年、東所以二別本一較訂。文字改正、以レ朱者即是也。以二墨書者、或東所手沢、並係二増補一者為レ多。蓋

器財箋、東厓(ウヱ)在時校訂。故比(ヒ)他部(タ)最正。惟明書(ウヰ)あり。この後「飲饌箋第三帖」「服章箋第三帖」欠本。第十三冊表紙裏に「安永丁酉新鑄、人事箋、平安奎文館発行」とある。第十七冊巻末に「京師書林、奎文館、瀬尾源兵衛発行」とあり、朱書識語「天明壬寅正月二十日了。改点企(キ)レ事。癸卯七月初四校正了。伊藤善韶(イテウ)」「寛政十年戊午四月借(カ)二伊藤先生校本一校正始、同五月十二日卒(シ)レ業。是年四月二十五日晝、家君即世、五月四日凶信到。此冊及前冊成中校讎。嗚呼哀哉。惟明(ウヰ)」が記される。

147 秉燭譚 写本(大) 全五冊(五卷)
第一冊冒頭に「享保己酉年五月尽日、伊藤東涯長胤書」、第五冊末尾に「安永六年丁酉之夏、中村守篤写」と記す。

148 唐官鈔 写本(中) 全一冊
伊藤長胤輯。唐代の官職解説(漢字仮名交り文)。巻末に朱書「庚申春二月、請二伴重威本一、写二水哉閣上一。福島・木沢二子加レ功、校訂一過、孳々(シ)斎主人」あり。「徳勝之印」「字士建」押印。

149 制度通 刊本(中) 全十三冊
伊藤長胤著。刊記「寛政丙辰冬全刻、施政堂藏版」。

150 制度通抜萃 写本(大) 全一冊
内題「紹述先生制度通抜萃」。表紙裏に識語「本書全部十三策アリ。涉獵義之拔萃。字画不レ正。(徳勝之印)」。巻末に「鸞溪藏」の墨書。

〔諸家雜類〕

151 言志録 刊本(大) 全一冊

佐藤一斎著。無刊記。本文末尾に「文政癸未嘉平月、福知山城主源綱條校字」、巻末に跋文(甲申春仲月下浣、書二於浪華城山里廨舎一。源綱條)あり。

152 雪山録 刊本(大) 全六冊

藤原明遠(中村蘭林)著。表紙裏に「蘭林先生著、雪山録、精博堂藏」。刊記「寛延四年辛未五月穀旦。江都書肆、吉文字屋次郎兵衛、西村源六、小川彦九郎同梓」。

153 蠡海雜録 写本(大) 全一冊(五卷)

巻末に識語「武田信最写之書。延享丙寅歲四月中旬」「此書、宝曆三癸酉年四月十五日、西万木邨西□寺二遊ビ、御所持之由□、供□致シ歸リ、日長ノナグサミニ写シ、同五月十九日二返近シ、持參校合スル者也。五番領友松軒、季貫、六十九歳」あり。かなりの虫損本。

154 訓蒙大意和解 写本(中) 全一冊

本文末尾に「享和七年卯九月日。執齋三輪希賢誌」。後に「志士論」(享保□年卯四月十三日。執齋希賢誌)あり。巻末に「文政辛巳初秋写。中村憲功藏」の朱書あり。

155 索隱述贊(附孝子伝贊) 写本(大) 全一冊

「史記索引述贊」と「本朝孝子伝贊」(伊嵩子所撰)を書写。表紙見返に朱書「史記百三十篇(司馬遷撰)十二本紀十表八書三十世家七十列伝、索隱(唐司馬貞著)。此一策、省所弱冠所レ録。他日与レ余。中村氏藏」あり。

156 記事珠 写本(大) 全一冊

表紙に「享保壬子年三月、自二東都青山邸、信州上田尚徳堂一反古也」「弱年所レ記、不レ許二他見一。丙々丁々」などと見える雜記帳の類(41丁余存す)。

157 三器攷略 写本(大) 全一冊

度量衡関係書。巻末に識語「此書惕齋先生所レ著。寛保紀元辛酉仲夏日、請二安原氏一写二于大溝邸舎一。中村徳勝」あり。

158 古今銘尽 刊本(大) 全七冊

刊記「万治四年辛丑三月吉日、(室町鯉山町)小島市郎右衛門板行」。慶長十六年版の覆刻か。

159 〔改正〕孔方古文錢録 刊本(小) 全一冊

無刊記。古錢の図録。

160 新撰錢譜 刊本(中) 全三冊(三卷)

無刊記。古錢解説書。巻頭に序(天明二年壬寅秋七月中元日、北村繼元長理謹叙)、第三冊末尾に跋(天明元年辛丑春三月、源龍橋記誌)あり。

161 婚礼国尽し 写本(中) 全一冊

某姫の婚礼に際する結納進物を記す。巻末に識語「緩々堂、村常之。慶応二丙寅年、季白書レ之」あり。

162 算法智恵海大全 刊本(中) 全一冊

刊記「寛政五年癸丑六月、(大坂順慶町五丁目)柏原屋清右衛門、(同心斎橋南四丁目)吉文字屋市兵衛」。表紙見返に墨書「文政九年丙戌之冬十月求。友松軒中村藏(印)」あり。

163 発蒙書東式 刊本(大) 全二冊

書式例示集。甚しい虫損本。巻頭に「発蒙書東式、東都小宮山昌世君延編輯、男昌国子郡、侄元善長翁校」。刊記「宝暦五年乙□九月、書林(京都六角通御幸町西入)茨城多左衛門、(江府日本橋通二丁□)前川六左衛門」。

- 164 〈改正絵入〉南都名所記 刊本(中) 全一冊
全21丁。刊記「宝曆四甲戌年、万延二辛酉正月吉日改、〈南都大仏西門前〉絵図屋庄八版」。
- 165 敦賀十勝 刊本(折本帖大) 全一冊
敦賀の名勝を彩色版画で描き、歴史・文学的資料を付す。卷末識語「曩時石塚資元子著二敦賀志四卷一。集稿未レ脱而子逝矣。時人皆惜焉。今茲拔二集中十箇名区一、令二元紀生画一レ之、且填二邑人詩歌一、以上梓。庶幾為二雅客探勝之助一云。明治六年冬十月、赤水益田伸芸識(印)」。刊記「明治七歳五月官許、緑塵園、小雅堂蔵」。
- 〔祭礼関係〕
- 166 二礼童覧(上) 刊本(小) 存一冊
藤井懶斎著。卷頭に序文(万治三年七月)。「喪礼」(上卷)のみ存。表紙見返に「中邨季貫」の墨書。
- 167 葬祭弁論 刊本(大) 全一冊
表紙見返に「藤井懶斎著、中邨季貫」の墨書。刊記「寛文七丁未立春日、書林伊吹吉右衛門梓行」。
- 168 慎終疏節 写本(大) 存二冊(卷一、三)
第一冊卷頭に序(元禄庚午仲冬之月、平安仲欽序)。各冊末尾に「中邨季貫写レ之」とある。
- 169 追遠疏節序 写本(大) 全一冊
卷頭に序(元禄庚午仲冬之月、平安仲欽序)。末尾に「元禄十有四巳六月日。五番領邑、中村季貫写レ之」の墨書あり。
- 170 聞録慎終疏節 写本(大) 全一冊(四卷)
卷頭に序(元禄壬午秋閏八月二十一日、阿陽後学、増謙益夫書)。卷末に識語「享保五庚子歳孟趣上旬。中村季貫写」あり。
- 171 祭礼儀節 写本(中) 全一冊
卷末に識語「享保九年辰八月。佳太郎中村氏十歳写」。
- 172 養実服忌弁疑 刊本(大) 全一冊
刊記「天保甲午孟冬刊」。後に「天保五年甲午之春、蔵本中村憲功」の墨書あり。
- 〔訓戒書等〕
- 173 書諸紳 写本(小) 全一冊
- 雑記覚書の類。末尾に「從二曾我左衛門尉一相伝之極意、不レ残書進上申……」(寛永拾九年六月十六日)。「右之書者、從二楠嘉兵衛殿一御相伝。雖レ為二秘事一……」(寛永二拾一年如下句写レ之)の識語あり。
- 174 〈校正〉翁問答 刊本(大) 全五冊
第四冊末尾に刊記「慶安三曆初冬、風月宗知堂刊行」。第五冊冒頭に「慶安三年庚寅夏六月既望。門人識」ともある。各冊に「中村季貫」の朱書あり。
- 175 鑑草 刊本(大) 全六冊
中江藤樹著。無刊記。各冊に「季貫」印あり。第六冊末に「六十包終、友松軒中村季貫(花押)」の墨書あり。
- 176 身之鑑 写本(大) 存一冊
表紙に朱書「薬師川ヨリカリ写ス。元禄十四年也。季実」あり。上・中巻のみ存。
- 177 明君家訓 刊本(小) 全一冊
井沢蟠龍著。刊記「正徳乙未孟春穀旦。柳枝軒茨城方道繡梓、〈京師六角通御寺町西江入町〉書林茨城多左衛門板行」。
- 178 養子訓 刊本(中) 全三冊
表紙見返に「養子訓、坂陽、書舖菅生堂蔵版」、卷頭に「養子訓、讚陽丸亀、三田義勝著」とある。刊記「享保十七年壬子正月穀旦発行、丑春流布。浪花書林菅原堂主人河内屋宇兵衛印行」。その後「全三本中村氏蔵」の墨書。
- 179 徂徠答問書 写本(大) 全一冊
内題「徂徠答問書之中抜書」。卷末に「享保甲辰年、塾生根遜志伯修編録。享保十二年丁未五月刊行」とあり、その後「延享三年九月、読于大溝解舎」の朱書あり。
- 180 酒井七良左衛門立 写本(大) 全一冊
「覚」として書き始める書付。村の公事に関するもので、親子兄弟の争議が記され、「他領の人に見すべからず候以上」と卷末に記す。識語「天和三年亥四月、酒井七郎左衛門。村之庄屋、年寄、免二百姓一申」の後に「右七良左衛門立ハ、天和其節丹州生野村ナドノ御代官之記」と付記する。
- 181 〈新板〉御式目鈔 刊本(大) 全一冊
内題「御成敗式目、上・下」。刊記「寛政七年卯初春、平安書林著屋儀兵衛求板」。
- 182 四季法礼 写本(大) 全一冊
卷末識語「右一冊者、当家伝来之倭物語ノ趣ヲ為二根本一。之成先生増二補古今之吉事一、授二門弟子一秘本也。妄不レ可レ有二外見一也。伊藤甚右衛門幸氏、同隼太幸充、同将曹幸督、同隼太幸辰」。その後「文政四歳辛巳之孟秋、写二于

小屋之書齋一。中村憲功希業蔵之」と記す。

183 農諭 刊本(大) 全一冊

巻頭に「下野国那須郡黒羽家士、為蝶軒鈴木武助正長著」とある。飢饉・天災・不作等に備えること。『農政全書』(明・徐光啓撰。六十卷)の読書を奨める(末尾に「時文化二年乙丑八月二十四日誌」)。また、識語(文政乙酉仲秋、水戸秋山盛恭識)によると、「郷人長坂氏刻本」をもとにした重刻本という。刊記「天保二辛卯六月重刻」。

〔字書・字義書類〕

184 画引増字分類便覧 刊本(小) 全一冊

無刊記。末尾に「徳勝」と墨書。

185 〈正字画引〉大益分類便覧 刊本(小) 全一冊

無刊記。巻頭題「画引増字分類便覧」。冒頭に「詩文押義集成序」(元禄辛巳孟春上澣、蝸窟散人)あり。「友松軒主人」「中邨氏」の墨書あり。

186 続説文筌蹄 写本(中) 存一冊

荻生徂徠著。『続説文筌蹄』巻一〜三の写し。

187 文筌小言 刊本(中) 全一冊

服部元喬著。刊記「享保甲寅三月、書林、京師西村市良右衛門、東都西村源六發行」。徳勝之印あり。

188 助語辞 刊本(中) 全二冊

内題「広益助語辞例集、和州高市郡、三好氏似山子編集」。刊記「元禄七甲戌曆、(二条通晴明町)井筒屋六兵衛板」。

189 増補仮字つかひ 刊本(小) 全一冊

表紙見返「増補仮字つかひ、浪華書肆、嵩山堂出版」。巻頭に「和字解叙」(元禄己卯花朝日、貝原篤信)あり。版心題「増補和字解」。刊記「延享五年辰正月吉辰、(大坂鉄橋宮川町)土佐屋喜兵衛」。

〔書画・法帖類〕

190 〈増補〉和漢書画一覽 刊本(横小) 全一冊

刊記「文政二己卯年孟夏、聚文堂蔵版」。裏表紙に「天保五年午三月調于東都一。中村氏」の墨書あり。

191 草訣百韻歌 刊本(大) 全一冊

無刊記。草書の字形を学ぶ為に五言一句の韻文歌に草書字体を挙げる。陰刻。巻

末に「享保十五年庚戌三月十四日。中村徳勝」の墨書あり。

192 法帖(表紙に墨書) 写本(大) 全一冊

安原霖竇の書。「徳勝蔵」と墨書。

193 法帖・徵明先生石楮 拓本(大) 全一冊

石刻拓本を法帖に仕立てたもの(陰刻)。本文末尾に「戊申秋日、録二旧作四首一。徵明」とある。最終丁に「丁卯之冬日、崎好謙写之与レ予。中村徳勝蔵」の墨書あり。

194 成章帖(南山蔵) 刊本(大) 全一冊

服部南郭他の漢詩を版本に陰刻した法帖。無刊記。巻末識語(赤羽源君嶽識)に「戊午年春、南山滕子福来索二字帖」とある。

195 春台碑帖 刊本(大) 全一冊

無刊記。内題「春台先生墓碑」(楷書。陰刻)の法帖。碑文の後に「友人、平安服元喬撰。東都葛辰書」とあり、跋文(延享五年二月三日、華嶽菅種房跋)が付され、末尾に「西村源六梓」と見える。

196 四字経 写本 折手本一帖

中村繁太郎(徳桓)筆の法帖。

197 (書名不明) 拓本(大) 全一冊

草書体の拓本(陰刻)法帖。「君不見、南宋牧溪…」に始まり、末尾に「庚申閏七月、赤羽源君岳書」とある。

198 超□帖 写本(大) 全一冊

楊炯・賂賓王・陳子昂・郭振らの詩句を記したものの、双鉤本。巻末に「鸞溪」「徳勝」印あり。

199 (書名不明) 写本(大) 全一冊

漢詩を行書で記した法帖。末尾に「寛政九年丁巳四月、君山河尚弼書」とある。

〔書簡類〕

200 庭訓往来註 刊本(大) 全二冊

無刊記。

201 女庭訓 刊本(大) 全一冊

巻末に「皇都書林、神先向松堂(寺町通三条下ル)著屋宗八」とあるが刊年無し。

202 書翰初学抄 刊本(大) 全一冊

刊記「天和四子歳孟春上澣日、(江戸神田新葦屋町)西村半兵衛、(京三条通)同市郎右衛門、大津屋庄兵衛刊行」。

203 合衆国和解書翰 写本(大) 全一冊(24丁)

末に「大日本国老中阿部伊勢守正弘、牧野備前守忠雅、松平和泉守乘全、松平伊賀守忠優、久世大和守広周、内藤紀伊守信親」の名を列記。

204 伊藤諸先生書翰 写本 二軸(乾・坤)

乾巻には、伊藤文蔵(竹里男)・正蔵(仁斎三男)・平蔵(仁斎四男)・才蔵(蘭嶋。仁斎五男)らの中村作弥(徳勝)宛や、才蔵・良正の安原貞平(霖寰)宛自筆書翰所収。坤巻には、伊藤忠蔵(東所。東涯長男)・延蔵(東里。東涯三男)から作弥宛自筆書翰所収。

205 徂徠書牘拔萃 写本(大) 全一冊

内題「徂徠集、書牘拔萃一百二十四首、物茂卿著」。表紙見返に「此集拔萃、写字漉漫、不許他見」の朱書あり。また、巻末にも朱書識語「延享戊辰之年、祇二役于東都一、乞二上田侯之臣田辺生本一、公餘涉獵拔萃。客舎忽々、写字不正。窃供二強記一耳。鸞溪蔵」あり。「徳勝之印」「字士建」押印。

206 安原先生書翰 写本 二軸

安原霖寰から作弥宛の書翰十通所収。

207 書翰四通 写本 未表装各通紙包み

安原霖寰の作弥宛書翰三通、伊藤才蔵の作弥宛書翰一通。

208 諸説 写本(中) 全一冊

表紙に「熊胆書簡(来復四篇)」「順氣説」「灸書簡」「蕃椒説(後藤左一郎)」「一氣鬱滯説」「補汚弁(後藤省左仲)」と記す。柳川靖仙・後藤左一郎・藤原達との来復書簡や「答二撰州鳥養郷□邑長竹裏賢丈一書」を所収。末に「享保三戊戌十月朔。家君甲寅之秋情二善□一写。訓点徳勝」とある。

【日記類】

209 中そらの日幾 刊本(大) 全一冊

香川景樹著。表紙見返に「東塙大人紀行、中空の日記、松之丸屋蔵」。刊記「嘉永三年庚戌春発行、弘所書林、江戸(日本橋通一丁目)須原屋茂兵衛、同(芝町明前)岡田屋嘉七、大坂(心齋橋通北太郎町)河内屋喜兵衛、皇都(三条通高倉東入)出雲寺文治郎」。

210 勢遊志 刊本(中) 全一冊

表紙見返「響石園詩附勢遊志、盧橘堂蔵」。伊藤長胤は奥田士享の熱心な招きを受け、享保庚戌夏に伊勢に旅し、旅日記『勢遊志』を書いたが、奥田はそれに「鸚鵡石詩」(安原貞平・松井徳隣・並河公賢の作)を付し、自らの「観二鸚鵡

石」の長篇詩を加えて刊行した。末尾に「京師書肆、野田弥兵衛蔵版」とあるも刊年はない。「中村徳勝」の朱書あり。

211 奥窓隨筆(癸未紀行) 写本(大) 全一冊

安原霖寰著。宝曆癸未の初夏に君主に召され江戸に赴き、九月末に斜橋の御館を出て上田城に帰った旅の記。道中多胡郡を通り興味を持ち、「上毛多胡郡御館」を写し計測値を記す。また、『盞簪録』の記事引用もあるが、その後に「多胡郡碑考証」を記し、文字の考証を行い、多くの法帖を引用し、字様に注目する。巻末に「宝曆癸未歳九月、安原良平識」とあり。その後朱書「明和二年乙酉夏六月、霖寰先生所し恵。孳々齋主人」がある。

【狂言・和歌・俳諧】

212 狂言記 刊本(大) 存一冊

表紙見返「五番領村、松隣堂、中村哥助、季貫」の署名。巻一のみ存。

213 和歌題林抄 刊本(中) 全六冊

巻頭「増補和歌題林抄」。刊記「宝永三丙戌歳菊月如意月、(皇城五条通塩釜町書舎)北村四郎兵衛寿梓」。

214 和歌麓之塵 刊本(小) 全三冊

表紙見返「以敬斎有賀長伯著、和歌麓之塵、京撰五書堂合梓」とあるも刊年なし。各冊巻末に墨書「高島勝野、小野寺秀發、共二三冊之内」とある。

215 俳諧発句類聚(上) 刊本(小) 存一冊

表紙見返「俳諧発句類聚、青願廬了輔編輯、八采園蓼松剛定」。巻頭に「発句類聚序」(文化四年丁卯七月上旬、深川隠士八洲蓼松題)あり。

中村家系譜(昭和九年六月中村家所蔵ノ原本ヨリ是レヲ写ス)

家譜略

中村氏ハ元山崎氏、宇多源氏佐々木ノ支流ナリ。治承ノ頃、佐々木氏驍勇ヲ以テ著ハル。源頼朝ニ属シ、宗族年ヲ経テ江ノ左右ニ蔓衍ス。元龜・天正ノ交、其五番領ノ城ニ在ル者ヲ、山崎兵庫頭(二作左馬)ト称シ、高島七頭ノ一タリ。織田信長七頭ヲ討スルニ及ビ、其ノ滅ス所トナル。子孫中村氏(後稱)ヲ称シ、下ツテ民間ニ在リ。伝ヘ云フ、某ノ時、邑宰トシテ民望ヲ失シ、遂ニ竹槍席旗ノ厄ニ遭ヒ、邸宅文籍悉ク灰スト。故ヲ以テ山崎氏以来ノ世代沿革ヲ知ル由ナシ(後稱)。

(注一) 季貫記二八、中村ハ大臣魚名公五代時長卿末流藤原氏トアリ。又旧藩時代自家ノ文書、皆

源姓ヲ用ヒズ、藤原ヲ署セリ。惟フニ山崎歿落後、母氏若クハ妻氏ヲ稱シタルモノナラン歟。

(注2) 山崎氏ノ事蹟ハ全湮滅シテ釋スベキモノナシ。唯同地信広寺鐘樓ノ側ニ、旧城濠ノ痕跡ヲ存シ、中村家ノ屋後ニ數基ノ石仏・五輪塔、山崎氏ノ墳墓ト伝フ。碑面文字雨蝕、讀ム能ハズト雖、少クトモ三、四百年以前ノ物ト知り得ベシ。又五番領ノ南、官道ニ接スル部落ヲ南市ト稱スルハ、城南ノ市街ノ意ナリト云フ。

其初メテ記録ニ存スルモノヲ正永ト為ス。正永、通稱新右衛門。慶長年間始メテ旧城趾ニ住シ郷士トナル。之ヲ初世トシ、爾後(正齋、仲實、伯常、厚齋、義)現代喜六ニ至ルマデ實ニ十一世。常ニ郷党ノ右族トシテ推サレ、時ニ或ハ邑宰トナリ、里正トナリ、或ハ戸長・村長トナリテ、郷民ヲ提擧ス。間々異材ヲ出ス。正永ノ子治郎右衛門弓術ヲ善クシ、勢州龜山侯ニ仕フ。曾テ技ヲ三十三間堂ニ試ム。二世正齋、剛直ニシテ氣節アリ。時ニ五番領及傍々近諸村、膳所侯石川主殿頭ノ領邑ニ屬シ、邑宰成田源左衛門来リ治ス。成田性貪戾苛斂、是事トシ、日夜淫宴ニ耽ル。郷内田中村民薬師川弥五郎及五番領里正新之丞等、之ニ詔諛シ、常ニ側ニ在テ其ノ奸ヲ助ク。領民頗之ヲ苦ム。正齋其ノ暴横ヲ惡ミ、公事ニ非ザルヨリハ、未曾テ其ノ門ニ到ラズ。且弥五郎等ニ面シ、痛ク之ヲ戒飭ス。彼等反テ之ヲ嘲ミ、成田ト相謀リテ、正齋ヲ構陷シ、其ノ田宅ヲ没シ、之ヲ領外ニ逐フ。時ニ膳所侯參觀シテ江戸ニ在リ。正齋即死ヲ決シテ妻子ニ訣シ、窃ニ江戸ニ至リ、侯ノ邸門ヲ出ヅルヲ窺ヒ、輿ニ就テ之ヲ訟フ。衛士捕テ邸ニ拘ス。吏訊問状ヲ具シテ以聞ス。侯曰、是寡人ノ過ナリト。命ジテ其ノ拘ヲ解キ、厚ク之ヲ遇ス。幾クモ無クシテ、交代期到ル。即携テ封ニ歸リ、大ニ群臣ヲ会シテ、其ノ処分ヲ議シ、成田父子ヲ召還シ、其罪ヲ數メテ自裁セシメ、弥五郎父子ヲ斬リ、首ヲ郷里ニ梟シ、新之丞ヲ逐ヒ、正齋ガ自宅ヲ復ス。郷民頼テ以テ安ンジ、深ク正齋ヲ徳トスト云フ。又学徒ヲ出スコト多シ。正齋、子仲直、藤樹先生ニ学ブ。四世伯常、其ノ弟季貫共ニ藤樹ノ子常省ニ学ブ。伯常ノ子五世伯武厚先生ト稱ス。季貫ノ子徳勝、伊藤東涯及蘭嶋ニ学ブ。大溝侯ニ聘セラレ、三代(光、命、光)ニ歴任シ、世子ノ傳トナル。中興ノ明主光実公(光実公ノ伝、載テ近江)ヲ傳育シ、啓沃ノ功最多シ。命ヲ承ケ、藩校脩身堂ヲ創設シ、日々ニ經義ヲ講説ス。藩士彬々化ニ嚮ヒ、文教之ヨリ興隆ス。又曾テ江戸ニ在リ。大溝侯出役トシテ、朝鮮国使節ニ接待ス。蓋當時ノ一榮誉タリ。性謹厚、其ノ学踐行之レ務メ、且自奉ズルコト儉薄、着スル所常ニ手織木綿ニ限レリ。時人訛稱シテ、トクカツ先生ト云フ(其伝載テ近江人物)。七世悠齋ノ子西川文仲(其傳載テ近江人物)亦儒ヲ以テ大溝侯ニ仕ヘ、脩身堂ノ教授トナル。廢藩後、私塾ヲ京都ニ開キ、困学堂ト号ス(其伝載テ近江人物)。而シテ季貫産ヲ分チ、別ニ家ヲ立ツ。是ヲ吾家ノ始祖トナス。爾後、現代徳通ニ至ルマデ實ニ六世。幸ニ先祀ヲ存スルモノ、亦祖宗ノ餘徳タラズンバアラス。茲ニ其梗概ヲ記

シ、以テ後昆ニ伝フト。云爾。

昭和二年十月 中村徳通謹識

附記

宗家ヨリ分レタルモノ、自家以外左ノ如シ。

一、治郎右衛門家終分家 現戸主治平 京都ニ住ス。

一、勝五郎家厚齋ノ子分家 現戸主勝治 京都ニ住ス。

一、新助家伯常ノ子分家 明治年間嗣絶 裔孫たね、林庄治郎ニ嫁シ、滋賀郡和邇村ニ在リ。

右、昭和三年九月現在

凡例

一、吾家、從來系譜ノ設アラス。蓋家新ニシテ、未編輯ニ至ラザリシモノナラン。然ルニ、歲月勿々、今ヤ既ニ二代ヲ累ルコト六世、年ヲ経ルコト二百二十一星霜。古来ノ事蹟ハ將ニ漸ク湮滅セントス。吾之ヲ慨スル久シ。而シテ未編輯ノ機ヲ得ズ。本年六月、官ヲ罷メ大津ニ移ルニ及ビ、始テ編輯ニ着手シ、此ニ脱稿ヲ見ルニ至レリ。

一、初代及次代ノ事蹟ハ各々自記ノ拠ルベキモノアレドモ、其以降近代ニ至ルニ及ビ、反テ不明ノモノ間々アリ。是等ニ対シテハ、異日ノ調査・追記ニ俟ツベク餘白ヲ存セリ。

一、歴代事蹟ハ、努メテ引用書記述ノ儘ヲ転載シ、以テ當時ノ世態情勢ヲ髣髴タラシメンコトヲ期セリ。是レ彼此文体ノ不_レ等一ナル所以ナリ。

一、事蹟中、旧時代ノ官職身分等、後世ノ為、聊解説シテ参考ニ資ス。

藩政時代ニ於ケル士ノ階級ハ、家老ヲ上位トシ、以下物頭ノ用人・奉行・近習等、之ヲ総稱シテ馬廻、又ハ給人ト云フ。所謂騎列ナリ。即、戦時ニハ馬ニ騎リ、弓箭ヲ帶ビ、一介ノ鬪士トシテ馳逐シ、平時ニハ公武ノ出入、槍及狹箱ヲ具シ、若党及草履取ヲ従フ。此ノ階級ニ於テ、全国到ル処、初メテ士人タルノ待遇ヲ享ケ得ベシ。其ノ以下、中小性性・徒士、之ヲ士分ト稱シ、品位下ルコト各々一_レ等ナリ。徒士ノ下ニ卒、即チ足輕アリ。維新ノ後、藩制ヲ改メ、馬廻リ以上ヲ上士、中小性性ヲ中士、徒士ヲ下士ト稱シ、後卒ヲ併セ、之ヲ士族ト総稱セリ。邑宰ハ代官ト稱ス。藩士ヲ以テ任ズルアリ、又所在ノ名家ヲ選ビ充ツルアリ。里正ハ庄屋ト稱ス。農村ノ長ナリ。維新後、郡県ノ治ヲ行ハレ、乃郡ヲ若干区ニ分チ、每区ニ数村ヲ属セシメ、区ニ区長、村ニ戸長ヲ置キ、以テ下級行政ニ当ラシメ、郡庁之ヲ管轄ス。

後、区ヲ廢シ、郡役所ヲ設ケ、郡長ヲ置ク。但、当時ノ村ハ概ネ現今ノ大字部落ナリ。

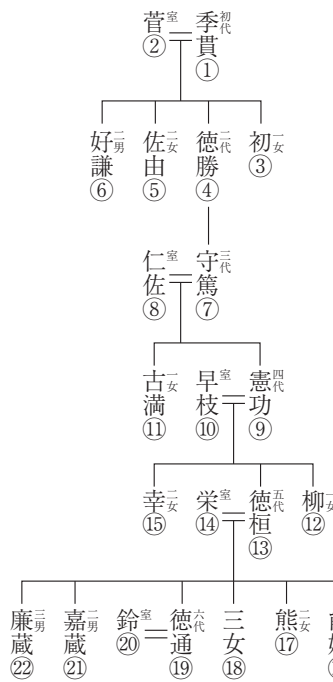
一、系図ノ方式ハ、時世ノ遷移ニ伴ヒ、必ズシモ旧慣ヲ踏襲セズ。婦女子登録方ノ如キ、其ノ著シキ例ナリ。

一、編輯ニ方リ引用セシ主要書目左ノ如シ。

- 家譜略 系 伝年録(以上宗家蔵) 季貫記 德勝記 鸞溪府若行状 大溝崎人伝(抄録) 君侯家系譜 光実公御行状 騎列由緒書(長野氏蔵) 紹休君墓誌 御長柄奉行留記(慎猷君) 御囲居(近藤重蔵幽所) 当番手控(同上) 退隠願(同上) 慎猷君墓誌 良桓君履歷書 武野家系譜(付氏蔵) 大溝藩及滋賀県辞令書(良桓君) 戸長退隠願(同上)
- 一、吾最文字ニ拙シ。而カモ人ヲ倩フテ之ヲ書写セシメザル所以ノモノハ、後世子孫其ノ悪筆ノ故ヲ以テ、続記ヲ憚ランコトヲ虞レタレバナリ。之ヲ諒セヨ。

昭和三十年十月 編者識

系図 *原本は系図周辺に人物略記を載せるが本稿では系図を掲げた後に略記を記す。



① 季貫

近江国高島郡五番領村中村新右衛門仲実四男。母ハ押戸村吉村新左衛門女夏。

幼名加太郎。元服シテ哥助、後作野右衛門ト称ス。

一、貞享二年乙丑十月十五日生。藤樹先生ノ子中江常省ニ学ブ。

一、宝永五年戊子正月、兄伯常ヨリ田十五石ヲ受ケ分家ス。爾来農及硯工ヲ業トス。

一、享保六年辛丑十一月十七日、大溝侯分郡左京兆(公忠)ニ出仕シ、爾後屢々東都ニ祇役ス。

一、同十五年庚戌九月、江戸へ五度目。此節御宿割被ニ仰付。道中足輕一人小人二人馬一駄被レ下相勤下ル。

一、同十六年辛亥三月、法皇(元霊)使(中納言)御馳走役被ニ仰蒙。三月三日ヨリ十三日迄伝奏、御屋敷へ御広間出役相勤ル。

一、同年三月十四日、左京亮様御死去。同十八日、松溪院ニ御葬送。此度モ出役勤ル。

一、同年十一月、致仕ス。猶家臣ノ待遇ヲ被レ賜。

一、同十九年子ノ(寅ノ八月)三月、洛陽中立売後藤佐一郎先生寮二人、医術弟子ニ加ハル。寅ノ八月、佐一郎死去。是ヨリ例年両度程ツ、仲介(嗣子)先生方ニ百日日行勤行。爾後郷里ニ於医ヲ業トス。

一、宝暦五年乙亥六月二十五日卒。享年七十一。田中玉泉寺ニ葬ル。敬信府君ト諡ス(碑面中村季貫之)。

② 菅

本間氏。庄堺村(現時安藝村)福因寺良意女。

一、宝永五年戊子正月二十三日入嫁。

一、明和二年乙酉七月二十日卒。田中玉泉寺ニ葬ル。妙円孺人ト諡ス(碑面安原)。

③ 初

一、宝永六年己丑十月二十一日生ル。

一、享保十一年丙午、宗家伯常八男新助ニ嫁ス。

一、安政二年癸巳閏三月十四日卒。年六十五。妙通ト諡ス。

④ 德勝

幼名加太郎、又佳大郎。元服シテ作弥ト称ス。字士建、鸞溪。又孳々斎。俳号吟風。

一、正徳二年壬辰十月二十七日生。幼ニシテ学ヲ嗜ミ、親族安原霖雲ニ学ブ。

一、享保十四年己酉、十八歳。霖雲同道上京。古義堂行、東厓先生へ初見入門。

一、同十七年壬子、信州上田松下伊賀侯ヨリ、堀川古義堂へ儒官請待。霖雲官遊。此時隨身、信州ニ五年居ル。其内三年目帰省。上京古義堂ニ寓ス。復信州ニ行ク。

一、元文元年丙辰秋九月、東厓物故ニ付、霖雲ニモ上京。其節大帰ス。爾来官遊迄二三年之間、古義堂へ春秋往来寓宿ス。蓋東涯歿後、弟蘭嶋、紀

州侯ノ命ヲ以テ帰リ、子弟ヲ教ヘリ。

堀川並霖寰ニテ、文官彼此諸侯家へ二十口ヨリ三十口迄吹拳モ有レ之ドモ、父遠游ヲ好マザルヲ以テ辞ス。尚官游ノ翌年ヨリ、療病ヲ兼ネ、毎三四年之間一上京。暫ラク古義堂へ寄宿ス。又江戸祇役中、詩ヲ高野蘭亭ニ質ス。

一、同四年己未之夏、二十八才ニテ近所ノ事、父母ノ望ニテ、大溝侯（守光命孫）へ官游側勤（姓中）。

爾来世子甚三郎様（光胤）善次郎様（光美）へ御素読被ニ申付一、侍講侍読ス。

一、宝曆三年癸酉十一月、御納戸役被ニ申付一（君公並二公子衣服）。

一、同十三年癸未、於江戸一朝鮮人御用被ニ仰付一。

未ノ秋ヨリ御組合御出度方度々之御寄合申談、毎月兩度ツ、御留守居役三宅庄右衛門同道。尤作弥給人格乗馬鑓等ニテ罷リ出ル。御組合八十頭ノ御大名。中略。翌年甲申三月十一日、江戸出立。遠州舞坂迄送り、道中川支居滞留等有レ之。四月四日江戸へ帰着。供廻リ若党草履取両掛狭箱四枚肩合羽籠鐘持。中略。五月末、江州へ罷帰リ、首尾克相勤。御褒美御上下、用意金毛被レ下候事。

一、明和六年己丑五月六日、新知五十石、格式給人本席被ニ仰付一。

勤方ハ、善次郎様御読書、是迄通、弥御勤メ申上。日勤段々被レ及ニ御成長一候義、何角存附候義ハ申上。其ノ外御子様方、万事御教育申上。

其ノ餘、殿様御召物等引請、相勤候様、尤御子様方御召物モ同様ノ事。一、同年六月九日吉辰、善次郎様御半元服御袖留御実名相考指上候様、殿様（光胤）御直ニ被ニ仰付一。孟子出処光実ノ文字指上ル。

一、同年七月二十二日、家中中町恒川文太旧屋敷拝領被ニ仰付一（翌年五月十四日、石橋家）。

一、安永六年丁酉十二月八日来四月戌年、善次郎様被レ遊ニ御出府一候ニ付、御供被ニ仰付一。御附御用人役被ニ仰付一候事。

一、同八年己亥四月十六日、於東都御前一、御家老佐治典右衛門殿列坐。表御用人役並御目附役兼帯被ニ仰付一。小身モノノ義、五石可レ被レ下旨、於ニ御用所一、典右衛門殿被ニ仰渡一。

一、同年十一月、勘定目附役兼務。

一、天明五年乙巳六月、佐治旧宅学校ニ被レ付。作弥毎日四ツ時（凡午前）ヨリ罷出、講釈被レ付。二日ヨリ論語古義開講。孟子集注ニテ講ル事（右奉行と稱ス）。

一、同年七月二十五日、於ニ御書院一孟子集注講釈被ニ仰付一。八ツ時（凡午後）ヨリ殿様（光美）御出座。諸役人衆諸士一統御徒士以下迄出席。

一、寛政二年庚戌二月六日卒。享年七十九。田中玉泉寺ニ葬ル。慎徳府君ト諡ス（碑面寛政先生之嗣及碑文ハ在世）。

（中誌シ照カレタルモノト伝フ）

⑤ 佐由（三女）

一、正徳五年乙未九月朔日生。

⑥ 好謙（男）

幼名三太郎。元服シテ善之進、後年平馬ト称ス。

一、享保三年戊戌四月五日生。

一、元文五年庚申三月、丹波福知山侯朽木土佐守家中河崎郷右衛門名跡ヲ継グ。御用人格、秩百五十石ヲ食ス。

⑦ 守篤（三子）

同藩小野寺平之進道格三男。母膳所藩多川氏女。幼名熊吉。入家シテ丹蔵、後作野右衛門ト称ス。

一、宝曆八年戊寅十二月十八日生。幼ヨリ徳勝ニ字ビ、又射ヲ別府翁ニ習フ。

一、安永四年乙未十二月十三日、養嗣子トシテ入家。

一、同六年丁酉十一月、被ニ召出一、新知式拾石代給人嫡子格被ニ仰付一。

一、同七年戊戌四月十一日、世子善次郎様（光美）御出府ニ付、父ト共ニ御供ス。

一、同十年辛丑二月、出レ京堀川東所（兼雅ノ）へ初見。御講談モ承リ、又嵯峨（二尊院所）御墓参リ、後又東所ノ子東里（美弘）ニ師事ス。

一、寛政二年庚戌二月、養父死去ニ付、家督相続被ニ仰付一。

一、同年七月、事ニ坐シ、中小姓ニ貶セラル。

一、同五年癸丑四月、嫡子格ニ進ム。

一、同八年丙辰二月、近習トナリ、中条道登上位ニ進ミ、秩二十石、月俸二口ヲ賜フ。

一、享和二年壬戌四月、騎列父徳勝ノ旧位ニ復シ、秩五十石ヲ賜フ。

一、同年十一月、侯（光美）命ヲ承ケ、世子米吉君ノ実名ヲ撰ビ、光邦ノ二字ヲ上リ嘉納セラル。

一、文政三年庚申、長柄奉行被ニ仰付一（藩中ノ繪及長形武器ヲ管）。其他年月不詳、藩学（光美）

脩身堂学頭役勤務ス。

一、同六年癸未八月十四日、江戸藩邸ニ卒ス。享年六十六。煨骨ヲ大溝瑞雪院ニ葬ル。紹休府君ト諡ス（碑面川崎）。

⑧ 仁佐

苗村氏。実ハ同家五番領村中村勝五郎女。蓋周礼同姓ヲ忌ムヲ以テ、故ラニ祖母ノ姓称シタルモノ歟。

一、安永八年己亥□月□日生。

一、□年□月□日入嫁。

一、万延元年庚申七月二十六日卒。享年八十二。大溝瑞雪院ニ葬ル。妙續孺人ト諡ス（碑面横井）。

⑨ 憲功

幼名直吉。元服シテ加之助、後作弥ト称ス。字希業。号ニ魯洋一。

一、寛政十一年己未□月□日生。幼ニシテ藩学脩身堂ニ入り、長ジテ京都ニ行キ、古義堂伊藤東峰（論弘）ニ謁シ、弟子ノ礼ヲ執ル。後東都ニ祇役シ佐藤一斎ニ從学ス。最書ヲ善クス。

一、文化十年癸酉、被ニ召出一。秩録格式前例ノ如シ。

一、文政六年癸未、父死去ニ付、家督相続被ニ仰付一。

一、同十一年戊子九月、御預人近藤重藏殿警護ヲ被レ命。

一、天保六年、光寧公、大阪城加番ニ付、扈從ス。

一、同十年己亥四月、京邸留守居役被ニ仰付一。

一、同十一年庚子十二月二十三日、於ニ御用所一、御長柄奉行御徒士頭被ニ仰付一。再三御辞退申上候処、從ニ江戸御差図一、被レ仰越候ニ付、速ニ御請可ニ申上一之。学校学頭役（任命年）之義ハ、是迄通可ニ相勤ニ旨被ニ仰達一。

一、同十三年壬寅五月朔日、学校学頭役被ニ仰付一。於ニ御用所一、御月番長野主税殿被レ仰。一通辞退申上候処、是迄モ被ニ相勤一候事、何レニ被ニ仰付一（不明）候旨、再応レ被ニ仰付一二付、御請申。難レ有奉レ存段申上引退。

一、弘化三年丙午正月、町奉行兼務。

一、嘉永五年壬子五月、眼疾ニ因リ、長柄奉行及町奉行ヲ辞ス。

一、万延元年庚申七月四日、眼疾及脚痛ノ故ヲ以テ退隠。

一、同年九月二十二日卒。享年六十二。大溝瑞雪院ニ葬ル。慎猷府君ト諡ス。

（碑面中村憲功） 又節翁慎猷居士ト称ス。

君性勤儉、最理財ニ長ス。五番領ノ田園多クハ其ノ購フ所ニ係ル。後明治維新ニ際シ、士人皆食録ヲ失ヒ、困苦ヲ窮メタルモ、幸ナル哉、吾家ハ頼ツテ以テ生活ノ安定ヲ持続シ、今日アルヲ得タリ。後世子孫宜シク銘記スベシ。

⑩ 早枝

武野氏。初名佐屋。同藩武野友也茂承女。又ハ佐江ト書ス。

一、文化九年壬申二月十日生。

一、十四歳ノ時、京都御室御所諸太夫久富遠江守ニ養ハレ、十五歳復帰ス。

一、同十二年己丑十一月□日入嫁。

一、明治十七年十一月二十七日卒。享年七十三。大溝瑞雪院ニ葬ル。貞光孺人ト諡ス（碑面横井）。法名常心院寂室貞光大姉。

⑪ 古満

一、文化六年□月□日生。

一、□年□月□日、同藩喜多岸助左衛門之経ニ嫁ス。

一、明治六年九月二十八日生。享年六十五。瑞雪院ニ葬ル。詮量院大姉ト諡ス。

⑫ 柳

初名里江。

一、天保元年庚寅十二月二十三日生。

一、安政元年甲寅二月、京都下立売西洞院西入勢州亀山外、数藩留守居用達河合裕作（初名小）ニ嫁ス。

一、明治三十二年九月二十八日生。享年七十。洛東黒谷ニ葬ル。真相院法岸柳樹大姉ト諡ス。

⑬ 徳桓

幼名熊吉。元服シテ繁太郎ト称ス。字士濟。

一、天保三年壬辰十二月晦日生。幼ニシテ藩学脩身堂ニ入り、後、川田剛（講師）ニ聴講ス。又筆道ヲ関研次ニ学ブ。撃剣ヲ嗜ム。

一、弘化三年丙午、被ニ召出一。秩録格式前例ノ如シ。爾来光寧・光貞二公ニ近侍スルコト多年。屢々東部ニ祇役シ、又駿府及大阪城警衛ニ参与ス。

- 一、万延元年庚申七月、父憲功退隱ニ付、家督相続被ニ仰付一。
- 一、文久三年癸亥正月、京都留守居役被ニ申付一。元治元年甲子正月迄勤務ス。

當時恰毛幕末紛擾之際、諸藩ノ留守ト往来シ、或公家ニ、或ハ武辺ニ

屢々伺候シテ、周旋頗最メ、為ニ藩ノ名声ヲ揚ルコト尠カラズト云ウ。

- 一、元治元年甲子七月、長兵闕ヲ犯スノ時、光貞公ニ從フテ、禁内ニ入り守衛ス。

後雲母坂ニ戎ル。

- 一、慶応元年乙丑二月四日、町奉行役被ニ申付一。

- 一、明治元年戊辰十月（古ノ政後）大溝藩庶務役被ニ申付一。社寺租税會計ノ事務ヲ掌理ス。

- 一、同二年己巳六月晦日、大溝藩士族被ニ仰付一（班士）。現米十四石被レ下。

- 一、同年十一月、司農兼會計社寺刑法被ニ仰付一。

- 一、同三年庚午閏十月、大溝藩大属（官制改革）。

- 一、同四年辛未六月二十三日、解藩ニ付、大津県貫属士族被ニ仰付一。

- 一、同六年一月十五日、高島郡第十一区大溝中町戸長申付候事。滋賀県庁（同下）。

- 一、同七年二月、小学校創立ノ功ニ依リ、左記褒状ヲ賜ル。

高島郡第十一区大溝町

戸長 中村繁太郎

其ノ区小学校開校ニ付テハ格別勉強町内ト合議シ速ニ其ノ功ヲ奏シ全ク方今ノ御趣旨ヲ奉レ体候段神妙之事ニ付前途猶無レ怠可ニ尽力ニ事

明治七年二月十五日 滋賀県令 松田道之

編者附言。天明五年、慎徳君初テ藩学脩身堂ヲ設ケテ、爾後連綿相繼テ人材ヲ育成シ、畜ニ吾藩文事ヲシテ遠ク儕藩ヲ凌駕セシメタルノミナラズ、降テ明治維新ノ後、学制頒布セラレ、小学校設立ニ方リ、之ガ教師ノ欠乏ハ各地ノ通患ナリシモ、独吾県、特ニ西江州一帯ハ、吾旧藩士ノ

争フテ教職ニ就キタル為、経営上些ノ遺憾ナカラシメ、其ノ功績実ニ顕著ナルモノアリ。今又府君郡内ニ率先シテ小学校ヲ創立セラレ、想フニ、吾家ト吾郷ノ教化トハ、其ノ間深因シ存スルコト、寔ニ奇トスベシ。

- 一、同年八月十四日、依レ願。戸長差免候事（接スルニ、行政区画ノ若クハ職制改革ニ依リ形式上ニ時此辭令ニ接シタルモズル）。
- 一、同年九月九日、高島郡第十一区戸長申付候事。
- 一、同八年一月二十八日、依レ願戸長差免候事。

當時ノ辞表ニ云ウ、不肖ノ私義、一昨明治六年一月、戸長蒙リ、仰ニ其後当村戸長一。御改正ニ付キ、又候ニ蒙仰ニ同役一ノ添心ニ預リ、今日迄勤務仕候得共、元来愚昧ノ上多病、時々疝痛相發リ、御用欠等相成候。

而者甚恐入候間、何卒出格之以ニ御仁恤一、役義御免、被レ成ニ下度一。

- 一、同年五月、高島郡第十一区長当選。復病ヲ以テ辞ス。
- 一、同十六年十二月十二日。戸主ヲ嗣子万蔵（後徳通）ニ譲ル。
- 一、大正二年三月十六日卒。享年八十二。大溝瑞雪院ニ葬ル。良桓府君ト諡ス（法名常光院能翁良桓居士）。

君資性温厚、寛恕克ク衆ヲ容レ、而モ名利ニ恬淡。人皆推シテ長者トナス。退職後、悠游閑適、茶ヲ享テ自樂ミ、復時事ニ関セズ。如レスコト三十八年。竟ニ天寿ヲ以テ終リ、真ニ高士ト謂フベシ。

⑭ 栄

武野氏。初名幸、又かね。同藩武野源大夫徳越長女。

- 一、天保十二年辛丑十月二十五日生。
- 一、文久元年辛酉三月十五日入嫁。

⑮ 幸

初名鉄。一、天宝十二年辛丑八月一日生。

- 一、年□月□日、同藩細野恒尚（無スト）ニ嫁ス。
- 一、文久二年壬戌九月四日卒。享年二十二。大溝瑞雪院ニ葬ル。田台智鏡大姉ト諡ス。

⑯ 能

一、文久三年癸亥三月一日生。

- 一、明治七年、小学校ニ入学ス。又筆道ヲ旧藩祐筆八田智徳ニ学ブ。
- 一、同十六年十一月、勝野村士族長野與ニ嫁ス。
- 一、昭和二十八年二月□日卒（*後年加筆）

⑰ 熊

一、慶応二年丙寅□月□日生。五十日以内、同十二月二十一日夭。大溝瑞雪院ニ葬ル。智孝童女ト諡ス。

⑱三女

- 一、慶応三年丁卯十二月□日生。命名二先ダチ同二十五日夭。大溝瑞雪院ニ葬ル。智完嬰女ト諡ス。

⑲徳通^{六代}

初名万蔵。明治十九年九月十一日、改名。号ニ湖鷗侶一。

- 一、明治元年戊辰十二月二十七日生。

一、同九年一月勝野村鴻溝学校（小学校）ニ入り、同十六年高等科卒業（当時卒業者稀有賞品ヲ）。又太田重郎・長野昶（男）ニ就キ漢籍ヲ修メ、後京都ニ遊び、中学若クハ商業学校ニ学ブ。

一、同二十三年十二月九日、勝野郵便局長（三等郵便局長、後年勝野ヲ大溝ニ改称）（二）任ジ、判任六等下級手当ヲ被レ給。後累進、大正八年十二月二十一日一級手当ニ至ル。

一、同三十九年四月一日、三十七・八年戦役ノ功ニ依リ金貳拾円、大正四年十一月十日、大札紀年章ヲ賜ヒ、同十年四月二十日、通信事業五十年祝典ニ際シ、記念トシテ銀杯ヲ授与セラル。

一、同四十四年五月十日、正八位ニ、大正二年六月、勲八等ニ叙シ、瑞宝章被レ賜。後累進、同八年八月二十五日、勲七等ニ、翌九年十二月二十日、正七位ニ陞ル。

一、大正二年六月、同志ト謀リ、鴻溝日曜学校ヲ創設ス。後発達シテ鴻溝基督教教会トナル。

一、同七年十二月十六日、京都四塚郵便局長（後京都東寺ト改称）ニ転ズ。

一、蓋子女教育上便宜ノ為、請フ所アルニ依ル。是レヨリ居ヲ京都ニ移ス。

一、同八年七月二十三日、大溝留守宅、雷火ノ為、離レ家及物置ヲ残シ烏有ニ帰ス。

一、昭和三年五月二十九日、依レ願本官ヲ免ジ、多年勤績ノ故ヲ以テ大臣ヨリ褒状ヲ賜ル。

在職中、明治二十六年六月、近江国郵務研究会第一区長当選。其ノ後、

三等局長会副会長、会長トナリ、第二部通信事務研究会会長、局務整理会長、部長トナリ、又京都転勤後、七条局区内局務整理会長トナリ、自己

職責外、聊微力ヲ致スヲ得タルヲ喜ブ。出京ヨリ茲約十年。子女ノ教育略ホ完成シ、且ツ老境ニ赴キタルヲ以テ、是レヨリ閑地ニ就キ、徐ロニ

家事ヲ整理セントシテ致仕シ、六月三日ヲ以テ後任ヘ事務引継、同月二十三日、京都ヲ去リ大津ヘ転居ス。

⑳鈴^寅

戸田氏。滋賀郡膳所町士族戸田資慶女。母ハ撰津住吉神社々務正三位津守国福女三輪。

一、明治十一年九月十三日生。膳所小学校尋常科卒業後、杉浦重文ニ学ビ、又裁縫ヲ増田ノブニ習フ。

- 一、同三十年六月二十七日、結婚。

㉑嘉蔵^{一男}

一、明治六年五月二日生。小学校卒業後、明治二十三年東京ニ遊び、法律ヲ学ビ、後商業界ニ入ル。日露戦後、満州ニ赴キ、留マルコト数年。目下（昭和二年）大阪ニ在リ。菓舗ヲ営ム。

- 一、明治二十七年九月二日、同村士族小野寺悦ニ養ハレ、後其ノ家ヲ嗣グ。

㉒廉蔵^{三男}

一、明治十年九月二十八日生。同村士族細野雪江（姉）死跡相続ス。小学校卒業後、明治二十七年四月、滋賀県師範学校ニ入り、卒業シテ安曇小学校、若クハ母校付属小学校ニ教員タリ。後東京ニ出テ小学校長トナル。

一、昭和三年三月二十六日、徳通、武曾横山田二筆ニ反十三歩、五番領一筆一反二十歩ヲ割キ贈与ス。

一、蓋本人少時、教育費ヲ要スルコト尠カリシヲ思ヒ、特ニ此ノ挙ニ出テタルモノナリ。

(補記) 前掲家譜の「徳通」以下、今日迄の系譜を、中村恵氏の御許可を得て次に付記する。

